

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
FMD News Vol.53をお届けいたします。



FMD
OWNER'S CLUB



3月のTOPICS

■ 日本人における上腕動脈 FMD・NID のカットオフ値

2019年6月発行のFMD News Vol.44にて、日本血管不全学会からFMD基準値が発表されたことをお伝えしましたが、その内容が論文として発表されましたので、ご紹介します。

血管内皮機能障害はアテローム性動脈硬化の病態におけるファーストステップである。内皮機能の評価により、アテローム性動脈硬化の早期発見と適切な介入が可能になり、心血管合併症の予防につながる。しかしながら、内皮依存性血管拡張反応であるFMD、FMDのコントロールテストであるニトログリセリン誘発血管拡張反応NIDの診断基準は確立されていない。

そのため、日本人被検者の正常な内皮機能と血管平滑筋機能の診断基準を提案するために、心血管リスク因子または心血管疾患を保有するリスク群(n = 5,735)と非保有の健常群(n = 1,542)のFMDとNIDを測定し、カットオフ値を調査した。

上腕動脈FMDのカットオフ値

被検者の平均年齢は51.4±10.8歳(中央値50歳、四分位範囲44 - 59歳、範囲18 - 88歳)であった。
7,277名の被検者(男性5,817名、女性1,460名)のうち、高血圧3,243名(44.6%)、脂質異常症3,767名(51.8%)、糖尿病703名(9.7%)、喫煙者2,187名(30.1%)、慢性腎臓病693名(9.5%)、心血管疾患703名(9.7%)であった。
すべての被検者のFMDの平均値は、6.2±3.1%(中央値6.0%、四分位範囲4.2% - 8.0%)であった。
FMDの平均値は、健常群で7.5±3.3%(中央値7.3%、四分位範囲5.3% - 9.4%)、リスク群で5.9±2.9%(中央値5.7%、四分位範囲3.9% - 7.5%)であった。

ROC曲線分析によって、健常群と診断するためのFMDのカットオフ値は7.1%であることが示された[AUC 0.65 (95%CI 0.64 - 0.67)、感度0.53、特異度0.70]。

30代から60代までの年齢において被検者を4群に分けたところ、40歳未満8.9% [AUC 0.58(95%CI 0.54 - 0.61)]、40~49歳7.1% [AUC 0.61(95%CI 0.58 - 0.64)]、50~59歳5.9% [AUC 0.59(95%CI 0.56 - 0.63)]、60歳以上4.5% [AUC 0.63(95%CI 0.57 - 0.68)]であることが示された。

上腕動脈NIDのカットオフ値

被検者の平均年齢は62.2±16.1歳(中央値67歳、四分位範囲、54 - 73歳、範囲18 - 92歳)であった。
1,764名の被検者(男性1,109名、女性655名)のうち、高血圧1,449名(82.1%)、脂質異常症1,291名(73.2%)、糖尿病552名(31.3%)、喫煙者334人(18.9%)、慢性腎臓病453名(26.2%)、心血管疾患424名(24.0%)であった。
すべての被検者のNIDの平均値は、11.9±6.0%(中央値11.7%、四分位範囲7.6% - 15.6%)であった。
被検者を健常群(n=72)とリスク群(n=1,692)に分けたところ、NIDの平均値は健常群で17.7±5.7%(中央値17.4%、四分位範囲13.2% - 21.7%)、リスク群で11.7±5.9%(中央値11.4%、四分位範囲7.4% - 15.3%)であった。
ROC曲線分析によって、健常群と診断するためのNIDのカットオフ値は15.6%であることが示された[AUC 0.77(95%CI 0.7 - 0.82)、感度0.64、特異度0.77]。

出典：J Am Heart Assoc.2020 Jan 21;9(2):e013915.

■ 学会展示のご案内

第5回日本血管不全学会学術集会・総会

会 期：2020年4月12日(日)
会 場：御茶ノ水ソラシティ カンファレンス センター